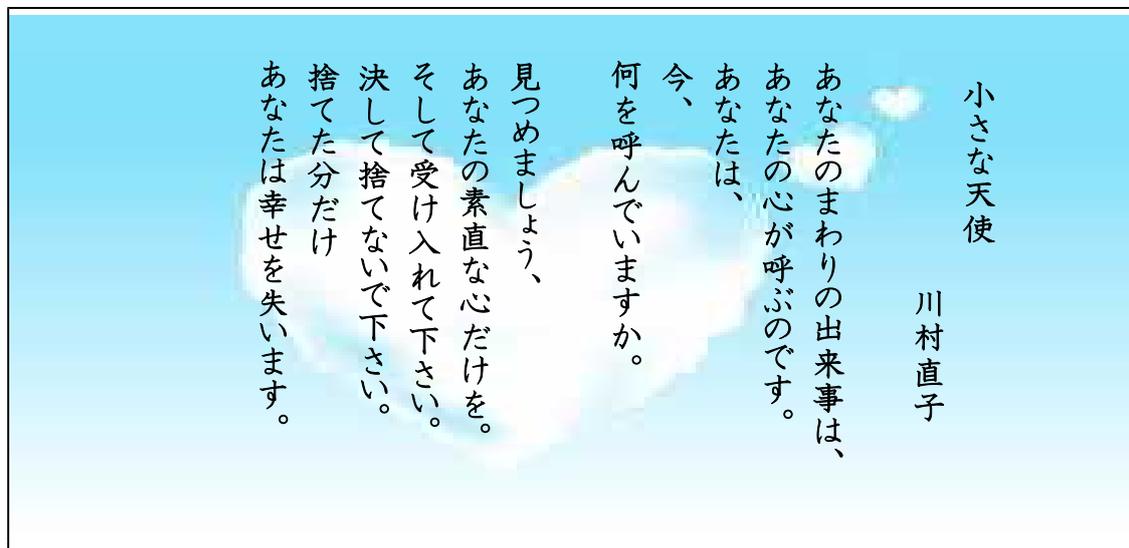


# 道徳便り



金沢錦丘中学校  
平成28年7月20日(水)



先日の文化ホールいっばいに歌声を響かせた合唱コンクール。クラス全員の心が一つになった美しいハーモニーが、私たちの心に強く響きました。人の心を強く動かすのは、勝つとか負けるとか、できるとかできないとかを超えた一生懸命の姿であると強く感じたひとときでした。明日から夏休み・・・心も体もゆっくり休めて、また、2学期もじっくりと「心」を育てていきましょう。

## 耕そう 自分の「心」

## —— 道徳の授業より ——

### 1年「アキラの選択」の授業

◆資料について・・・小学生のころから仲良しで、いつも一緒だったアキラとリョウタの二人。しかし、中学進学をきっかけにその関係が微妙に変化していきます。リョウタと一緒にいたいアキラの「選択」と自律したリョウタの「選択」が対比的に描かれ、アキラとリョウタの両方の立場に立って、自主的に深く考え判断することの大切さについて考えた一時間となりました。

#### ◇生徒の感想より

\* 僕もアキラと同じような経験をしたことがあります。そして、後悔したことは今でも覚えています。そのとき、周りにあわせるのではなく、自分の希望を大切にしようと思いました。自分の決断に責任をもち、じっくり考えて選択していこうと思います。

\* 私も、今までに何回も人の意見につられたり流されたりしたことがあり、やっぱりその後は、自分で決めなかったことを後悔したことがあるので、アキラの気持ちは納得できたし理解できました。人の意見に流されるとこんなことになるよよく分かりました。これからは、自分の意思で物事の決断をし、後悔しないようにしていきたいと思いました。



## 2年「国境が鍛える共生の思考」の授業

◆資料について…難民地の惨状に呆然と立ちすくむボランティアの若者に、「部屋の隅のごみを拾う、というようなことから始めなさい。今、ここでみることから」と難民地での国際貢献活動を行う犬養道子さんは答えます。そして、必ずこうも言います。「決して善いことをしていると思いなさんな」と。国際貢献という言葉の重みを深く考えさせられる資料です。

### ◇生徒の感想より（一部抜粋）

\*今日の授業で、難民地と日本は全く違って、そのことを意識して生活することが大切だと感じました。私は何度か募金をしたり鉛筆を提供したりしましたが、そのときは「よし、協力したぞ。」とその場だけ満足していました。実際は、そのお金がどのように役に立つのか、支援品を受け取る人達はどのような生活をしているのかも考えなければならなかったと思います。その国の現状を理解し、言葉だけでない具体的な支援をしなければならないと考えました。

\*相手の国に何の関心ももたずに物資を送るのとその国について理解を深め支援するのとでは、支援の意義は全く違うと思う。「支援したから良い」というのではなく、支え合うことは当たり前という前提に立って相手の置かれた状況を想像し、支援すれば良いと思う。これから僕は、具体的な支援をするために途上国について知識を増やしていきたい。



## 3年「スダチの苗木」の授業

◆資料について…父の職業への偏見から、父に対する敬慕の念がわいたことのなかった筆者。この資料は、当たり前の存在である自分の親への思いを見つめ直させてくれる資料です。親子関係がゆがむということはあることでしょう。しかし、お互いが生きている間しか、心を通わせることができない…そんなことを改めて考える一時間となりました。



### ◇生徒の感想より（一部抜粋）

\*改めて、「親」に対して感謝しなければならないことがたくさんあると感じました。毎日、僕のためにやってくれていることがたくさんあって、「ありがとう」という気持ちをできるだけ伝えていきたいと思います。そして、将来、僕も幸せな家庭を築いていきたいと思いました。

\*筆者は、両親の苦勞を知って自分が情けなくなり、また、(両親)に感謝しきれないくらい感謝したのだと思う。「親」というものは子どものことをいつも思ってくれているのだと改めて感じた。私も自分のやりたいことにいつも協力してくれる優しく温かな「私の両親」のようになりたいと思った。

----- 〈切り取り線〉 -----

返信欄:感想等ありましたら、お寄せください。